2014年(平成26年)2月15日発行 小金井稲門会会報第40号

# ザ紺碧

WASEDA UNIV. ALUMNI
小金井稲門会
KOGANEI TOMONKAI

発　行：小金井稲門会
事務局：小金井市中町2-13-7
石井嗣剛方
電　話：042-384-8166
ＦＡＸ：042-304-8166

目次：1～3P「特集」 4P「女子会リレーエッセイ」 5～6P「うちの部会はここが魅力です」 7P「2013年度の総会」 8P「これからの主な予定」

## 特集 早稲田サロン

## 知的好奇心を刺激する「気楽な空間」

2014年1月11日午後6時——。

武蔵小金井駅北口、旧長崎屋の裏手あたりにある居酒屋「壱番館」に10数人の会員が集まり、大きなテーブルを囲んだ。毎月第二土曜日の夕刻、小金井稲門会による「早稲田サロン」がここで開かれている。

この日の講師は、1976年法学部卒の中田裕之さん（写真右）。
テーマはご自身の趣味である「宇宙」と「映画」について。

「宇宙が誕生してから138億年と言われています。これはほぼ定説。誕生から現在までを1年という時間に換算した『宇宙カレンダー』を自分で作ってみました。宇宙誕生が1月1日午前零時とすると、人類誕生は大みそか12月31日の午後10時5分44秒、人類の文明が始まったのは何と大みそかの午後11時59分48・5秒です」

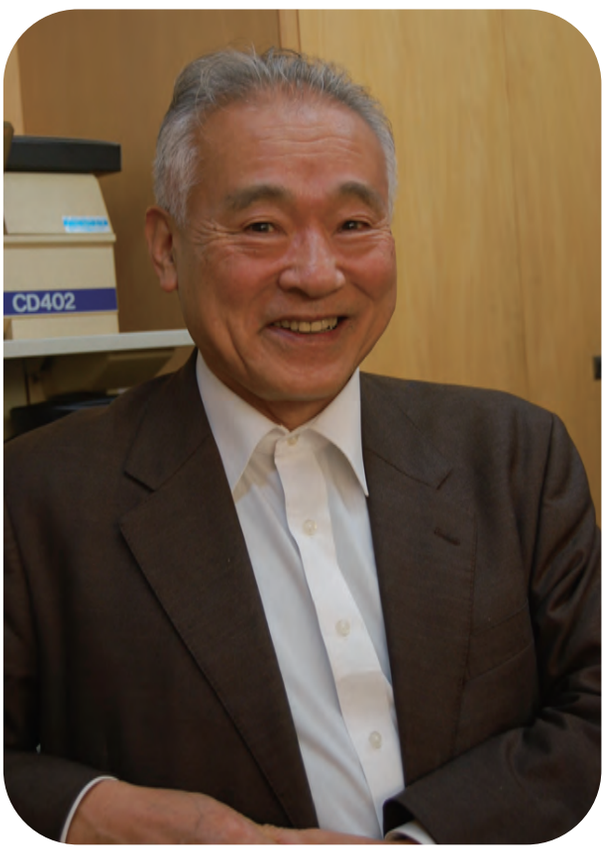
浮世の些事を忘れさせるかのようなスケールの大きな講師の話に、ビールグラスを片手にした参加者たちから「ほうっ」「ええっ」などと感嘆の声が上がる。知的好奇心を刺激され、その表情は生き生きと輝き、あたかも学生時代にもどったかのようだ。

小金井稲門会の名物ともなっている「早稲田サロン」。発足時からかかわり、現在のサロンを主催している亘理鐵哉会長にお話を聞いた。

**——いつごろ、どういうきっかけで始まったのですか？**

今から7年ごろ前、第5代会長の小杉山禮子さんの時に始めたものです。当時、私は副会長でした。
最初は「互いにお酒を飲みながら話せる場があればいいですね」ということからスタートしました。
だから初期のころは、講師役はいなかったんですね。ただ、集まって飲んで話すだけ。私のほか、鈴庄一喜さん（昭52年法）、前田稔さん（昭59年商）に幹事になってもらいました。（2面に続く）

当時は、会長の小杉山さんが主催している形をとっていましたので、小杉山さんは必ず出席されました。彼女は晩年、入退院を繰り返されていたのですが、車イスをご伴侶に押してもらって出てこられていました。ものすごく責任感の強い方でした。




**――今のスタイルになったのは?**

何年かやっていると、参加する顔ぶれが同じになり、マンネリになってくるんですね。そこで何か新しい要素が必要だなと色々と考えたわけです。勉強会と言ってもあまり厳しすぎるのでは多くはあつまらないだろうし、ただ飲んでいるだけではマンネリになってしまう。そこで、その中間あたりを狙ったのです。

居酒屋でやっているわけですから、周囲はそれなりに騒がしいですし、参加者は飲みながら聞いているので、講師の方には気楽に15分から30分程度お話をしてもらう。その話がきっかけになって、参加者が互いに意見交換をするというスタイルがよいのでは、と考えました。

**――講師の人選はどのように?**

最初のうちは古手の会員のみなさんにお願いしました。主だった方は大体やって頂いたんじゃないでしょうか。

現在は主に新入会員の方にお願いをしています。というのも、小金井稲門会に入会された方には、なるべく会の活動に参加してほしいのです。しかし、全員が参加できるのは総会、新春交流会、暑気払いなどと機会は限られています。早く何かしらのイベントに参加し、会になじんでいただけるようにと考えたわけです。自己紹介もかねて講師としてお話していただくようお願いをしています。

**――もっともご苦労されている点は?**

それは、講師を誰にお願いするかですね。絶えずそれを頭に入れて、毎月お願いする。これが一番大変です。

**――断られることもあるんですか?**

そりゃ、あります。

「今忙しいから」と断られ、何年後かに実現した人もいます（笑い）。

**――参加者の顔ぶれはどうですか?**

面白いのは、講師の付き合いのある方が出席してくれたり、普段あまり参加されない方でも自分の関心のあるテーマだから出席されたり、いろいろと変わることですね。

**――それにしても小金井稲門会は多士済済であることをサロンで実感します。**

まったくその通りです。早稲田サロンは、それを引き出していくのが狙いのようなものです。

（聞き手・佐藤和雄）

# 早稲田サロン

## 多彩な講師と多様なテーマ
## 2013年1月～2014年2月

## ■2013

◆1月
福岡貴子さん
「精神(科)病院に行ったことがありますか？」

◆2月
伊藤佳子さん
「結婚式　披露宴　今昔」

◆3月
河野治子さん
「最近の家族問題について」

◆4月
梅根憲生さん
「法人会と平成25年度税制改正について」

◆5月
山口辰雄さん
「ガラス屋の体験談　他人様の家に上り込んで」

◆6月
高橋康久さん
「気力・体力に合った年齢での退職　元気で生き甲斐のある老後生活を目指して」

◆7月
石井達久さん
「経営とマーケティング」

◆8月
参加者全員で
「新入会員のフォローについて」

◆9月
外川嘻善さん
「株式投資は頭の体操」

◆10月
宮浦孝明さん
「お墓と葬儀の最新動向　時代は安さを求めている」

◆11月
坂本光正さん
「虹の国・南アフリカについて」

◆12月
田口信子さん
「バーデン・ワインと原発　環境都市フライブルクと周辺地域について」

## ■2014

◇1月
中田裕之さん
「私の趣味　宇宙と映画」

◇2月
佐野浩さん
「もう一つの小金井の非常事態　財政経常収支比率99%は喘ぎの声」

女子会 リレーエッセイ

# 卒業後の仕事を振り返って

河野治子
（1967年教育学部卒）

昭和42年に教育学部の心理学専修を卒業し、広告代理店に約2年間勤務。出産のため退職し、10年間は家事と子育てに専念していました。

再就職を考えた時、就職に役立つ資格がなかったので難しかったのですが、ちょうどその時知ったのが、公文式教室（株式会社 日本公文教育研究会）の指導者の職でした。

数学が苦手だったので少しためらいましたが、公文式は子どもたちの能力に合わせて進めることができ、その教材のすばらしさに惹かれ、自分も勉強しながら17年間関わってきました。

子どもたちの能力は計り知れなく、本当にすばらしいことをここで教えてもらいました。長い場合には、ひとりの生徒と10年以上付き合います。学校の先生よりも長く成長を見守ることができるのです。大変ですが、とても楽しくやりがいのある仕事でした。

その間、思春期の子どもたちも多かったので思春期問題の勉強をするため、青少年健康センターの講座を4年間受け、終了時から事務局のスタッフとして、現在も関わっています。

歳をとった私の親と同居するために、それぞれの自宅を処分し小金井市に二所帯住宅を建てたのが平成7年でした。

公文式に魅力を感じていたものの、引越した家の近くにはすでに教室がありましたので、これからどうしようかと考えていた時に、家裁の調停委員のことを知り、その後16年間調停委員をしてきました（調停委員のお話は早稲田サロンでさせていただきました）。それも昨年9月に定年を迎えました。

現在は、青少年健康センターでひきこもりのご家族を支援するため、いろいろな取り組みをしています。ひきこもりご本人の高年齢化、彼らを支えるご家族の老齢化が深刻な問題となってきています。

月に1回、斎藤環先生の「家族会」を開いていますが、ここでもライフプランが取り上げられています。親が老後にかかる費用や、本人が生き残るためのサバイバルプラン等も考えていかなくてはならない状況になってきています。こうした問題に対して社会や行政の認識や支援はまだまだ低く、事務局でもこれからどうしていくかが課題になっています。

さらに、本人の居場所の提供、電話相談、面接相談等もしていますが、なかなか大変な状況です。

2年前に、こちらの会長をしている齋藤友紀雄先生が（自殺予防に関して第一人者）書かれたドイツ語の論文を読まれたドイツ人の方が、先生の仕事に共感され、援助を申し出てくださり、相談室「クリニック絆」を立ち上げました。

「クリニック絆」の大きな特徴は土曜日に予約制になりますが、精神科の先生と無料の電話相談ができることです。なかなか精神科に行きづらい方も多いので、小金井稲門会のみなさまにおいてそのようなご相談を受けた時に、この電話相談をご紹介いただけたらと思います（下の案内をご参照ください）。

皆様のお知恵をお借りし、またご支援していただけたらと思っています。これからもよろしくお願いいたします。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

**クリニック絆 (03)5319-1760**

**○一般相談電話**

**月曜～金曜　午後1時～午後6時**

**○精神科医による電話相談**

**第2・4土曜　午後2時～午後6時**

**＊面接相談もありますが、この場合は有料です。ご相談ください。**

# うちの部会はここが魅力です

## ～カラオケ部会～ 世代の歌、時代の歌を楽しむ夜 老いも若きも

現在小金井稲門会には12の部会・同好会があります。その中で「カラオケ部会」は2009年(平成21年）1月24日に第一回を開催したと聞いていますので、今年1月25日の開催で、ちょうど5年の節目を迎える事になりました。

カラオケは今や老いも若きも1年中楽しめる国民的行事となっており、小金井以外の稲門会の同好会にほとんどあります。

その運営の仕方はさまざまで、例えば「カラオケボックス」を利用して平日の昼間に開催する稲門会もあります。

### ■スナック貸切方式

わが小金井稲門会では、発足当初から「現役の人も参加しやすく、ゆっくりリラックスした環境で歌える」をモットーとして掲げており、毎月第四土曜日の18時から21時までの3時間、広めのスナックを貸し切る形で開催してきました。

小金井の中でその条件（予算男性3千円／女性2千円を含め）に合うお店を見つける事が中々大変で、初代の部会長を務められた福田卓雄先輩は、質屋坂の「スナック・アムール」で定着するまで大変苦労されたようです。

福田先輩から引き継ぎ、私が二代目の部会長をやっております。昨年7月には「スナック・アムール」のママさんがご体調を崩され、当面営業休止となったため、他のお店を探すことに。

現在は、ジャノメ通りの「飲み処がらん」と言うお店で定着しています。

### ■新しい参加者が続々

現在、新しい参加者が増えて、多い時で20人近く、平均では12人ほどの方々(そのうち女性2～3名)に毎回参加頂いており、年齢的にも50歳代から80歳代と幅広く、歌のジャンルも童謡・唱歌、歌謡曲、演歌、ポップス、英語バージョンと何でもありです。ただ、さすがにＡＫＢ48や嵐、ＥＸＩＬＥの歌を歌う人はいらっしゃいません。一番多く歌われるのはやはり世代的に石原裕次郎の歌でしょうか。

### ■時にダンスも

皆さんそれぞれの世代の歌を中心に歌っていますが、先輩たちの歌も、「懐メロ」として口ずさんでいる方もいたり、また選曲によっては時にダンスをされる方もおられるなど、和気あいあいのうちに3時間がまたたく間に過ぎてしまいます。

食べ物では煮物・漬物・軽食（焼きソバ）・乾き物などが提供されますのでお酒を飲めない方も寛いで楽しんで頂けます。

最終の午後9時頃には毎回「早稲田大学校歌」を皆で肩を組んで大合唱。雄弁会出身の河村雅敏さん音頭の力強いエール交換でお開きとなります。

（歌い足らない人は、散会後近くの馴染みのお店に二次会に。）

毎回世代を越えて懇親を深めておりますので、初めての方も一度気楽に参加されてはいかがでしょうか。お待ちしております。

部会長　皆川保則（昭和48年政経）

# うちの部会はここが魅力です

## ～早稲田スポーツ応援会～ 大迫力の箱根駅伝応援　応援後の集いも楽しいひと時に

**■設立は**

今を去る4年少し前の平成21年11月28日のこと。

国分寺駅ビルで小金井稲門会創立50周年記念パーティがありました。その際、亘理会長から「部会を盛んにしたい、何か出来ないだろうか？」という話が出ました。それではと言い出しっぺでスポーツ好きの佐竹義征氏を会長に、大久保勝則氏を副会長とし、世話役に篠崎が…で、皆さん酒の勢いもあり、あっという間に設立されました。

**■活動は**

▽年度始め4月の早慶レガッタは春のうららの隅田川でスカイツリーを見ながら。

▽6大学野球は、早慶戦を中心に各試合（ちなみに神宮球場の外野席は、早慶戦を除いて全女性と男性65歳以上が無料です。）

▽ラグビーは、伝統の早慶・早明戦に大学選手権

▽締めは、正月の箱根駅伝など早稲田スポーツには、こと欠きません。3年前には、あの斎藤佑樹、大石、福井の三羽烏で優勝決定した秋の早慶戦にも立ち会いました。

**■箱根駅伝で**

それではここで正月恒例の箱根駅伝応援の状況をお知らせしましょう。

正月休みの1月3日午前11時。武蔵小金井駅に集合し、ゴールの大手町・読売本社前まで行き、そこで早稲田の大応援団を探してから寒風吹きすさぶ中を選手到着まで2時間近く延々と待ち続けるのです。

というのは、時間が経つに連れて歩道は人垣で埋まり、到着時刻には歩くことはおろか身動きさえも出来なくなるのです。つまり、遅く行くと肝心の選手が見えず、見えるのは前の人の頭ばかりになるのです。

歩道のビル側には各大学の応援団が校旗を立ててタイコをガンガン叩き、リーダーは勿論ブラスやチアーまで繰り出して、TV観戦とはケタ違いのナマの大迫力にヤミツキになるのです。

今年は佐竹、河村（毎年趣味のマウンテンバイクで参加）、田口、篠崎の4名と少なかったのですが、アメリカはニューヨークから田口さんの知り合いの美女二人（写真のような凄い美形）が飛び入り参加し、“exciting”を連発して大盛り上がり。

（河村雅敏さん撮影なので、ご本人は写っていません）

いつもは終了後、東京駅なかでレース結果を肴に冷え切った体をアルコールや温かいそばなどで癒してから解散するのですが、今年は美女が揃っていたのでみんなで大コーヒーブレーク。

男3人は美女3人を囲んで、つたない英語や身振り手振りも交え日米友好に徹し、「今年は春から縁起が良いわい」と大変愉快なひと時を過ごして帰路に着きました。

■最近は参加者が固定気味なので、これを機に多くの皆様のご参加をお待ちしています。会員とそのご家族、ご友人で早稲田スポーツ大好き人間ならどなたでもウエルカム。応援の一ヶ月ほど前にホームページに要領を掲載します。

次回は4月13日（日）の早慶レガッタを予定しています。

篠崎潔（昭43年法）

# ２０１３年度の総会
# 出席者数が大幅増加
## 毛里名誉教授が記念講演
# 「中国とどう向き合うか」

11月30日（土）午後2時より、小金井稲門会第55回総会が市民会館萌え木ホールで開催されました。出席者は、来賓13人、会員67人の計80人。会員の出席者数は、前年を20人ほども上回る盛況ぶり。このところの小金井稲門会の盛り上がりを反映した総会となりました。

亘理鐵哉会長の今期活動の総括のあと、早稲田大学の鈴木嘉久・地域担当副部長から大学の近況について「創立150周年記念事業として日本人学生と留学生900人を収容可能な大規模学生寮が本年3月に中野に完成する」などのご説明がありました。

相談役の武車幸雄議長の下、原案通り全議事を終了し、活性化推進チームリーダー永井庸夫副会長の活動報告（詳細は『ザ紺碧』39号を参照ください）を最後に、総会は無事終了。

## ■毛里和子・名誉教授の記念講演

第2部・記念講演は「中国とどう向き合うか|日中関係のこれまでとこれから」と題して、当会会員で著名な日中関係の研究者で早大名誉教授毛里和子先生による約1時間の講演が行われました。先生の長年の研究・分析結果を基に戦後70年に近づきつつある日中関係は旧来の考え方では通用しない新たな時代に入っており、関係の正常化には仕切り直し的発想による再構築必要であるとのご提案でした。

第3部の懇親会は、例年にない多数のご出席のもと、総会と同じ萌え木ホールで行われました。西村正臣副会長の開会挨拶、當間東村山稲門会会長の来賓挨拶により開始され、増田義雄相談役の乾杯音頭に続き、例年通り部会の紹介、新入会員挨拶が行われました。参加者一同楽しく団欒し、篠崎潔副会長の指揮で校歌斉唱し、学生時代の気分に。

今総会は、永井副会長率いる活性化チームが小金井稲門会に与えたインパクトを推し計る結果となりました。入会された方が20人を超え、総会出席者が昨年比45%増えたことは活性化に対する努力が実ったと思われます。

## ■残る課題

ただ、

・男性会員が圧倒的多数
・女性の参加できる同好会がほとんどない
・70歳代会員が多数を占める

などの課題もあり、引き続き活性化への努力が欠かせません

## ■地域交流が刺激に

今総会に来賓として参加いただいた近隣稲門会は東村山、小平、国分寺、町田、武蔵野、西東京および立川稲門会ならびに府中校友会の8支部でした。他支部との交流は会員数の自然減という共通の悩みを抱えた各稲門会の活性化活動の参考となり、また刺激となっており、来賓の方々には感謝申し上げます。

事務局長・石井嗣剛（昭42年理工）

## ～小金井稲門会　これからの主な予定～

**■5月**

**17日（土）ツアーグルメ**

**31日（土）バーベキュー交流会**

**■6月**

**14日（土）市民公開講座**

**「ビジネスで役に立つウソの見抜き方」**

**講師は元刑事の森透匡さん**（写真）

プロフィール：警察の元警部。主に知能・経済犯担当の刑事を約20年経験。詐欺、横領、贈収賄、選挙違反事件等、多数の事件捜査に従事。刑事課長、県警本部課長補佐、警察庁課長補佐などを歴任。東日本大震災では広域緊急援助隊の中隊長として3.11の夜から福島県に派遣され、第一原発の爆発による放射能漏れの中、行方不明者の捜索を指揮した経験もある。2012年8月、起業のために27年勤めた警察を退職し、12月に千葉市内に株式会社Clearwoodsを設立。現在は講師業をメインに活動し、自主開催のセミナーを始め、東洋大学、税理士会、婚活イベントなどでも幅広く講演・講義を行っている。

## 新会員（2013年夏～　敬称略・順不同）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 植木俊光 | 緑町2丁目 | 1962年商 | |
| 山岸洋一 | 武蔵野市中町 | 1989年教育 | |
| 松澤建司 | 前原町3丁目 | 1977年法 | |
| 伊集院晶 | 緑町3丁目 | 1989年商 | |
| 眞鍋松郎 | 本町1丁目 | 1973年法 | |
| 坂東洋行 | 貫井南町4丁目 | 1990年法 | ＊ロンドンから帰国、再入会されました（第38号にご登場） |

## 訃報　ご冥福をお祈り申し上げます。

| | | |
|---|---|---|
| 安中義昭さま | 1973年商 | 2013年10月9日　ご逝去 |
| 大山進さま | 1955年政経 | 2014年10月11日ご逝去 |

## 訂正

第39号の8ページ「新入会員22人のみなさん」の欄で、「◇元教員　毛里興三郎（貫井北町5丁目」とありますが、毛里さんは元教員ではなく、1962年文学部卒でした。訂正し、お詫びいたします。

## 編集部から

小金井稲門会の会報は1990年5月の創刊です。その年10月には「ザ・紺碧」と名前を改めて第2号が発刊されました。それから四半世紀近く、着々と小金井稲門会の息吹を伝えてきました。今回、記念すべき第40号の発刊にあたり、これまで編集に当たられた諸先輩のご努力とご苦労に改めて敬意を表したいと思います。

さて、今号では早稲田サロンを特集しました。「集まり散じて人は変われど」と校歌のごとく、早稲田スピリットを持つ、様々な人たちのお話しがメインディッシュとなる集い。お酒が飲める方も飲めない方も、ぜひ一度のぞいてみてください。(佐)

＊デザインと編集協力：サーズデイデザイン（小金井市本町6-9-41-202　電話042-301-4555）